

ミラクルソル・ジオファイバー等 斜面防災 4 工法など講習 環境と防災と計測技術 研修会

環境、斜面の補修・緑化工法等のミラクルソル、ニューレスプ、ジオファイバー、SSL アンカーの4工法と計測技術の技術研修会が18日、唐津市の高齢者ふれあい会館「りふれ」で開かれた。官公庁や建設会社、コンサルなど約140人が参加。緑化や経済性などで環境負荷低減のできる斜面防災技術の工法と実績などを学んだ。ミラクルソル協会（原裕理事長）など4協会の主催。CPDS認定8単位。

原理事長が挨拶に続き、『多目的環境材料ミラクルソルの環境負荷低減技術』の演題で講演。ガラス廃材を発泡廃ガラスとして再資源化したミラクルソルを使った工法（29工法）について、その特性や施工実績、官公庁等への提案内容などを紹介した。多孔性材料で比重が変えられる特性を活かした水産養殖等の水質浄化や有明海の底質改善技術、斜面や屋上等の緑化工法、道路の熱を下げるFWG透保水性舗装工法、軽量盛土工法の施工実績などについて話した。

原理事長は「196カ国が参加しているCOP21では、地球温暖化を2度以下に抑えようと目標を立てているが、将来気温が4度上がれば、海面上昇により世界で6億2700万人の住む土地が水没すると予測されている。そのうち東

京も745万人が水没の影響を受けるという。我々建設業もCO2削減に貢献できる工法を考えていかなければならない」とミラクルソル工法の時代的意義を強調した。

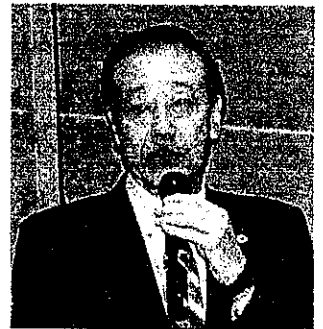
次いで、日特建設(株)技術部

の阿南祐二部長が『ジオファイバー工法・ニューレスプ工法：工法概要と設計施工の留意点』の演題で話した。ジオファイバー工法は、砂質土に連続したポリエステル繊維を均質に混合し、疑似粘着力を付与した補強土工法。さらに表面に植生工を施し自然の景観を有する法面保護工となる。施工実績では、東北大震災後の津波被災地の海岸法面や京都清水寺の斜面崩壊現場の地山補強土とジオファイバーによる自然の景観を復旧した工事などがある。

また、ニューレスプ工法は、老朽化した吹付コンクリートをはつり取らずに、適切な補強鉄筋を打設後、繊維補強モルタル吹付けで増厚することで補修補強する技術。老朽度の調査は、ハンマー打診、コア抜き調査、穿孔調査、熱赤外線映像法、たわみ振動法（弾性波法）などがある。

このほか、国土防災技術(株)の小野征一技術部部長が『地すべりの多様な地盤特性に適合したSSLアンカー工法』、サンスイ・ナビコ(株)営業開発部の小野理部長らが『グランドアンカー健全性調査他の計測技術』の演題で講演した

【2月22日HP掲載】



原理事長



日特建設の阿南部長



参加者